

令和6年度私立学校初任者研修近畿地区研修会実施概要
 ～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：大阪私立中学校高等学校連合会・和歌山県私立中学高等学校協会

会 期：令和6年8月19日（月）～8月20日 宿泊研修

会 場：大阪ガーデンパレス（大阪府大阪市）

参加人員：62名

参加対象者：滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各府県私立中学高等学校協会・連合会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

【日程細目】

第1日目 8月19日（月） 全体研修会場：2階 桐の間／昼食・経験交流会会場：2階 桜の間

9:30	受付・資料配付	
10:00	◇開会式 開会の辞 主催者挨拶 地区代表挨拶 運営委員長挨拶 運営委員紹介及び日程説明 閉式の辞	司会：渡部 昌文 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 西山 啓一 近畿私立中学高等学校連合会会長 佐々井 宏平 近畿地区初任者研修運営委員長 福家 崇明
10:30	◇研修1 講義題「県教育界に新風を、そして日本の名門校へ」 講師 藤田 清司 智辯学園和歌山中学高等学校 理事長	講師紹介：土橋 康宏
12:00	昼 食（会場は、「桜の間」座席は「桐の間」と同じ）	
13:00	◇研修2 講義題「学校における保護者対応のポイント！」 講師 熱海 康太 コアネット教育総合研究所横浜研究室 主任	講師紹介：山田 尊文
14:30	休 憩	
14:40	◇研修3 体験発表① テーマ「授業の幅を広げる授業計画チェックシート～深みのある授業へ～」 発表者 篠原 弘樹 松蔭中学校・高等学校 中学GS・高校GL 主任	
15:20	◇研修3 体験発表② テーマ「生徒指導の取組みについて」 発表者 上原 朋之 奈良学園中学校・高等学校 教頭	
16:00	休 憩	
16:10	◇グループ討議1… 会場・指導員は別記	
17:40	<各自ルームキーを受け取って、一旦、宿泊部屋に移動>	
18:00	◆経験交流会（兼夕食） 主催者挨拶/乾杯 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 西山 啓一	司会：藤井 宏樹
19:45	<グループ討議のグループごとにお集まりください>	

第2日目 8月20日(火)

全体研修会場：2階 桐の間／昼食会場：2階 桜の間

9:00	朝食・チェックアウト・移動 〈 チェックアウトを済ませて、荷物を持って会場にお集まりください 〉
	◇グループ討議2… 会場・指導員は別記
11:40	
12:40	昼 食 (会場は、「桜の間」座席は「桐の間」と同じ)
13:50	◇全体会～グループ討議報告 司会：藤井 宏樹
14:00	休 憩
15:30	◇研修4 講師紹介：石橋 伸公 講義題「最澄さんの人材育成」 講 師 佐々木 光 澄 学校法人延暦寺学園 評議員
16:00	◇研修のまとめ レポート作成・提出
16:20	◇閉 会 式 開式の辞 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 西 山 啓 一 修了証授与 近畿地区初任者研修運営委員長 福 家 崇 明 運営委員長挨拶 近畿地区初任者研修運営委員長 福 家 崇 明 閉会の辞

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】

開会が宣され、主催者を代表して西山啓一・私立学校初任者研修等事業検討委員より「学校の垣根を越えて、私学の教育を支えていく仲間を作ってほしい」と挨拶があった。また、開催地区代表として佐々井宏平・近畿私立中学高等学校連合会会長、続いて、運営委員を代表して福家崇明・近畿地区初任者研修運営委員長より挨拶があった。



西山啓一氏



佐々井宏平氏



福家崇明氏

【研修1】「県教育界に新風を、そして日本の名門校へ」／藤

田清司・智辯学園和歌山中学高等学校 理事長

藤田講師は、和歌山県が私学不毛の地と言われ、公立志向が強い中での開校当時から、全国に名の知れる名門校へと至った宗教的情操教育等について説明し、我が子のように児童生徒を愛し、時間を掛けてきめ細かく接することが重要であると述べた。



藤田清司氏

【研修2】「学校における保護者対応のポイント！」／

熱海康太・コアネット教育総合研究所横浜研究室 主任

熱海講師は、クレーム対応の基本的スキル獲得を目標とし、基本的な考え方や具体的対応を解説し、参加者同士でロールプレイングを行った。クレーム対応には、カウンセリングマインドを行った上で、追質問により本質的ニーズをつかむこと、情報を共有してチームで対応することが効果的であるとした。



熱海康太氏

【研修3-1】「授業の幅を広げる授業計画チェックシート～深みのある授業へ～」／

(体験発表) 篠原弘樹・松陰中学校・高等学校 中学 GS・高校 GL 主任

授業計画チェックシートを使用し、参加者自身の授業設計や活動を振り返った。生徒の人格形成や人間力を鍛える授業には、ICTを有効的に活用し、創造的思考や思考力・判断力、自立的学習をバランス良く活動案に取り入れることが必要であると述べた。



篠原弘樹氏

【研修3-2】「生徒指導の取組みについて」／

(体験発表) 上原朋之・奈良学園中学校・高等学校 教頭

具体的な生徒指導の問題を紹介しながら、学年間のみだった情報共有を各学年に広げたこと、システムを利用した情報共有、スクールカウンセラーとの連携等生徒指導体制の変化を紹介した。各自が当事者意識を持ち、対応することが重要であると述べた。



上原朋之氏

【グループ討議1】 研修1～4を受け、6班に分かれ、自分たちで課題を設定し、経験交流を通じてその解決策について討議を行った。

【グループ討議2】 グループ討議1に引き続き、同メンバーにて討議し、内容を振り返りながらグループ討議報告に向けて準備を進めた。



【グループ討議報告】 パワーポイントや演技を取り入れる等、班ごとに設定した課題についての討議のまとめを報告した。課題としては、「生徒指導」や「生徒対応」が多かった。

【研修4】「最澄さんの人材育成」／佐々木光澄・学校法人延暦寺学園 評議員

佐々木講師は、仏教の教えを通して、「自分の力などたいしたものではないと悟ると、仏の力を借りたくなる。新任教員も感謝の心を忘れず、経験のある周囲の先生方の力を借りることが必要である」と述べた。



佐々木光澄氏

【閉会式】

主催者を代表し、西山啓一・私立学校初任者研修等事業検討委員より「私学は時代の最先端の教育を行ってきた。新任教員にも新しい教育を作り出していきたい。」と挨拶があった。また、福家崇明・近畿地区初任者研修運営委員長より「教員の仕事がブラックと言われるようになってしまったが、教育は本当に大切な仕事である。この研修会の成果をもって、若手のリーダーとして学校を引っ張ってほしい。」との挨拶があり、研修会は終了した。

参加者アンケートより

研修1 講義「県教育界に新風を、そして日本の名門校へ」(藤田先生)

- 智辯学園の歴史の中で、先生方が大切にされている「生徒への愛情」が伝わり、感動した。教育に即効性はなく、何度も何度も熱く指導することが近道という言葉がとても印象に残った。
- 学校は違えど、大事にすることはどの学校も同じだと感じた。生徒のことを我が子のように愛するという言葉を私自身も大切に今後の教育活動を行っていききたい。
- 公立志向であった和歌山県に私学をつくることの大変さ、議会をまきこんだ私学、など和歌山県ならではの歴史を知ることができ、大変興味深かった。
- 進学校へ向けて教員同士で研鑽をしていることや、勉強だけでなく心の教育といった幅広いことを深く探究している取り組みが勉強になった。
- 「青春とはある期間を指すのではなく、心のありさまをいう」という言葉が一番心に残った。何事にも、いつまでも情熱を忘れない教員になりたいと思う。

研修2 講義「学校における保護者対応のポイント！」(熱海先生)

- 「クレーム」と聞くと、嫌に思ってしまう部分があるが、サイレントクレーマーよりもありがたいことと聞いて、確かにそうだなと感じることができた。
- 「クッションことば」をうまく使うことで、保護者の方がヒートアップしている際、和らげることが少しできそうだと感じた。又、何が本質としてあるのかを知る事が大切だということもわかった。
- クレームは学校に対する保護者からの正直な意見だと少しポジティブに捉えられるようになった。

研修3 体験発表①「授業の幅を広げる授業計画チェックシート～深みのある授業へ～」(篠原先生)

- 今の自分に足りない要素について気づくことができた。2 学期ではメッセージ性のある活動をより取り入れ、授業を通して子どもたちの人格形成に貢献していきたい。
- 「授業が信頼につながる」という言葉を忘れず、自分の授業の強み、弱みを分析し、常に授業力の湖上を目指したい。
- 教員の一番大切なことは授業であり、授業で生徒の信頼を得ることが大切であるということを学んだ。学んだことを実社会に役立てるような深い授業を展開していくことを意識していきたい。

研修3 体験発表②「生徒指導の取り組みについて」(上原先生)

- 時代の変化や生徒の実績に応じた生徒指導の取り組みの仕方も変えていく必要があると感じた。また、教員一人一人が当事者意識を持って学校全体で生徒指導に取り組むことが大切なのだと学んだ。
- 「いじめ」を始めとする重大事案が発生した際、担当の先生や学年だけでなく上の先生方にも共有し、スピーディな対応や対策の重要性について気付かされた。当事者意識を持って学校で起こる問題に対してアンテナを張っていたと思った。
- 指導のバラつきを是正するために一括で進められるような横割り方のシステムは必要だと思った。こうした仕組みは生徒だけでなく、教員にとっても業務がやりやすくなる感じた。
- 教員が個別で対応するのではなく、組織として、生徒の問題行動への指導を進めていく必要があり、各自がその当事者として動くこと、そして他学年の状況も把握できる教員になりたい。

研修4 講義「最澄さんの人材育成」(佐々木先生)

- 仏教の考え方で日常に生かすものが多いなと感じた。修行の中で佐々木先生が感じられた「自分は大したものではない」という内省は日々大事にしていきたい。
- 仏教の考え方は、教師という仕事を行う上で心に留めておくべきものの一つなのではないかと感じた。決しておごらず、常に教わる立場のことを考えて行動したい。
- 実践として実際に行動に移すことが大事である。また、仏教と学校教育は交わらないものではなく、仏の教えを基に指導に生かせるものもあると感じた。